

マルシェで地域活性化

近年、マルシェが、各所で開催されている。

「マルシェ」はフランス語で「市場」を意味し、出店者が商品を持ち寄り、臨時で市場のようなスペースを設けるイベントや即売会を指すことが多い。

有機野菜や手作りのパン、スイーツ、生活雑貨など、出店者のこだわりの商品や個性的な商品を購入できる。

地元野菜などは、スーパーの産直コーナーでも買うことができるが、マルシェは、出店者と直接会話を楽しめる。また、ハンドメイド教室に参加できたり、屋外で飲食を楽しみながらレジャー感覚で買い物ができたりすることも魅力である。

県内でもマルシェの賑わいがみられる。

近鉄川越富洲原駅西口広場を会場とする「川越マルシェ」は、三世代が楽しめる青空市をコンセプトに2013年から年2回開催されている。回を重ねるごとに集客数を増やし、コロナ禍前には1万人近くが来場するイベントに発展した。

松阪農業公園ベルファームなどを会場とする「クラフト&雑貨マルシェ」は、アメリカンカントリー雑貨を中心に08年から開催。県内外から60超の作家が出店し、遠方から足を運ぶ固定客も多い。

マルシェ人気の背景には消費者の商品に対するこだわりの高まりがあると考えられる。大量生産の商品では満足できないニーズをマルシェはとらえている。

また、創業の場としても期待されている。出店を通じて固定客を確保し、ネット販売などで事業を拡大する新人作家もみられる。

集客力にも注目が高まる。「川越マルシェ」の運営会社は、15年から商業施設や公共の遊休スペースでのマルシェ開催も手がける。

マルシェには地域を元気にする力がある。今後のさらなる盛り上げりに注目したい。

(コンサルティング事業部 PPP/PFIグループ 主任研究員 川北 晃二)